

5 小学校とつながる

事例 12

「学校ってこんなところ」 ～事前体験を繰り返し、安心して1年生に～

5歳児 11月(在日5年)

こんな時、 どうするの？

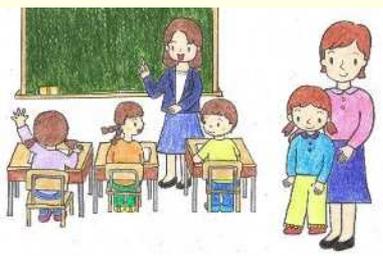
保育園に3年間在籍したA児は、小学校入学に不安を感じていた。自宅を引っ越すことになり、園で一緒だった友達と離れ、一人だけ別の小学校へ入学することになったことが大きな理由と考えられる。そんなA児を見て、母も不安になり、入学予定の小学校に11月頃相談の電話を入れた。

電話を受けた小学校は、A児と母親が学校の様子を知り、少しでも安心して4月を迎えられるよう、学校体験の場をもつことにした。



こうしたよ！

A児と母親から不安に思っていることを聞き、それに関わる場面を見たり体験したりしながら、安心材料が伝えられる場を複数回設定した。A児、母親とともに1年生の授業の様子を見学し、休み時間には子供たちの近くまで行った。A児は教科書に興味を示したり、1年生に話しかけられると、うれしそうにしたりしていた。



担当の教師が学校生活の様子を説明しながら、市の母語支援員に母語でも伝えてもらった。また、支援員が不在の際は、タブレット端末の翻訳機能を使って説明した。特に保護者が不安だったのは、下校のことだったため、支援員が同行し、登下校についての母親の不安を聞きながら、実際に下校を体験してもらった。

園とは大きく違う授業のことを伝えるとともに、タブレット端末を操作したり、休み時間に友達と遊ぶ様子を見たりする経験を通して、楽しさが伝わり、学校への不安が和らいだようでした。



実際に見たり、説明を受けたりした場面を共有することで、園でも援助の工夫ができるようにしました。



在園している保育園には、A児と母親が不安に思っていることと、小学校で見た場面や伝えた説明を共有した。

入学後のA児は、とても落ち着いて学校生活を送っており、不安を払しょくして入学することができた様子である。また、母親は、体験の場で小学校の先生とつながりができ、その先生に自分から挨拶したり、話しかけたりしていた。



ここが大事!

本人と保護者双方の安心が スムーズなスタートにつながります

説明会のような、情報を得る場は必要ですが、経験のないことや見聞きしたことのないものだと、自分ごとになりにくかったり、具体的にイメージしにくかったりする場合があります。本人、保護者の不安を聞き、それを学校の実際の場面で見たり体験したりすることで、安心につながります。就学する小学校には、どのような支援体制があるのか、事前に園から確認することも大切です。

コラム 小学校では、こんなサポートもあります

各学校の外国人児童等の在籍状況により、体制は様々ですが、実際に県内で行われている支援について一部紹介します。

【音声教材による学びの向上】

小学校では「音声教材」を活用しているところがあります。漢字やカタカナの混ざった日本語の文章を読むのは、日本語を習得している最中の児童にとっては大変です。検定教科書と併せて音声教材を使うことで、漢字やカタカナを目で追いながら、耳で聞いて読み進めていくことができ、学習への意欲が増した子がいました。日本語を読む力や書く力の習得につながった子もいます。



【日本語指導の時間】

小学校において外国人児童等が在籍する場合、子供たちが安心して過ごせる環境を整えています。なかには、日本語を学ぶための教室が設置されているところもあります。ここでは、児童の言葉の力に合わせた指導を行います。取り出し指導の場合は、在籍学級以外の教室で、教科の学習に必要な言葉を学びながら、在籍学級での学習へつなげていきます。児童にとって、母語での会話が思う存分できるその時間は、心の休憩時間にもなっています。